

低線量CT肺がん検診を受けられる皆様へ（事前説明書）

検診の目的

早期に肺がんを見つけ、適切な治療を行うことにより肺がんで亡くなる方を減らすことを目的としています。

検診の成績

低線量CT肺がん検診では、胸部X線検査による検診と比較して、より小さく早期の肺がんを発見できることがわかっています。低線量CT肺がん検診によって発見された肺がんのほぼ80%がⅠ期（早期のがん）で、この集団の5年生存率は約8割と報告されています。しかし、この検診で死者数を減らすことができるかどうかは完全にはわかっておらず、現在、世界中でCT肺がん検診の有効性を調べる研究が行われています。

検診の方法

検査台に両腕を挙げた状態で仰向けになり、約5秒、息を止めている間に撮影します。

撮影した画像を2名の医師が読影し、必要に応じて過去の画像と比較読影を行い、異常の有無を判断します。

検診結果は約1か月後に通知します。結果が「要精密検査」となった方は医療機関で精密検査を必ず受けてください。

■検診を受けられない方

- ペースメーカーを装着されている方
- 妊娠中の方または妊娠の可能性のある方
- 1週間以内にバリウムを飲む胃の検査を受けた方
- すでに肺がんと診断されている方、
肺がん治療中の方



■検診を受ける前に・・・

- ・検診前の食事の制限はありません
- ・ネックレスやボタン、金具のついた下着は外していただきます
- ・Tシャツ等を着たまま撮影します。

(検査着の準備はありませんので、各自で準備をお願いします)

検診の費用

■検診料金

市町や企業によって検診料金の自己負担金は異なります。お住いの市町又はお勤め先へお問い合わせください。

■精密検査料金

精密検査は保険診療適応（別途料金が必要）となりますので、必ず保険証を持参のうえ受診してください。

※裏面もご覧ください。

低線量CT肺がん検診で予想される利益・不利益

●検診を受けることにより期待される効果

肺がんであった場合、より早期に発見できる可能性があります。早期発見により、肺がんが治る、延命できる、より負担の少ない治療が受けられる可能性があります。

●放射線（X線）の被ばくについて

低線量CT肺がん検診は放射線（X線）を使った検査で、その被ばく線量は胸部X線検査の約10倍強です。

〈被ばく線量のめやす〉

低線量CT肺がん検診0.6～1.0mSv

胸部X線検査0.05mSv

生活の中で自然から1年間に受ける被ばく線量1.4～2.4mSv

●「要精密検査」となった方について

- ①精密検査は、保険診療となり検査費用がかかります。
- ②精密医療機関での精密検査の結果、異常が認められない場合があります。
- ③精密医療機関でCT等による定期的な経過観察や気管支鏡生検、経皮肺針生検、場合によっては全身麻酔下での胸腔鏡生検が行われる場合があります。

●肺がん以外の疾患が発見される可能性と発見されない可能性

低線量CT肺がん検診では、肺がん以外の呼吸器の病気（肺気腫、肺炎など）や肺以外の臓器（肝臓、心臓、乳房、腎臓、甲状腺など）の病気が発見される場合があります。撮影された画像範囲内で確認された所見についてはお知らせし、必要な方には紹介状を発行し専門医療機関への受診をお勧めします。

※肺がん以外の病気を発見することを目的とした検査ではないため、発見できない場合が多いとお考えください。

●検診の限界

今回の検診結果が「異常なし」や「精密検査不要」であっても、今後肺がんにならないということではありません。進行の早い肺がんは、次回の検診までの間に出現して発見されることもありますので、自覚症状がある方は医療機関を受診してください。

検診の精度管理のための追跡調査と結果の公表

検診では、精度管理（「要精密検査」となった方の中で何名が本当に肺がんだったかなどの検証を行うこと）や検診の改良が求められます。このため、受けられた医療機関より精密検査結果報告を受け、検診結果として公表することがあります。

なお、取得した個人情報は守秘義務に従い適切に取り扱います。

◎事前説明書の内容を理解され、受診を希望される方は、低線量CT肺がん検診受診票（別紙）に
ご署名をお願いします。



公益財団法人長崎県健康事業団
長崎県諫早市多良見町化屋986-3
TEL 0957-43-7131